

# 成道会のつどい

京都府私立中学・高等学校仏教青年会連盟



2017.12  
vol.208

成道会(11月15日)



## 「大谷われら」を深める旅

学校長 飯山 等

高校の研修旅行をコースに分けて実施するようになって2年目。いつものHRクラスを開いて5つのコースに再結合しての旅の時、12月4日から始まったその時も、10日にセブ島研修のグループが帰ってきて無事終了しました。大谷生としての現在を、新たに再発見し、あらためて経験し直す時となって「大谷われら」が更新される、そんなワクワクする時となったでしょうか。私も昨年は学校交流を行ったグアム研修、今年はハワイ研修に同行できました。ハワイではホノルル国際空港(2017年4月27日からダニエル・K・イノウエ国際空港と命名)に降り立って、まず始めに真珠湾を訪れ、旧日本軍による攻撃から76年目の12月7日(日本時間8日未明)に追悼式典が開かれるアリゾナ記念公園では、真剣な眼差しで墓碑銘を見つめる初老の夫婦を横に見ながら、想像力や共感性が欠如したまま風景・諸施設を眺めやる自分を感じずにはいらませんでした。バスガイドさんの、この島の山の北側はアラスカからの風を直接受けるので山なみが急峻で自然環境が厳しく、人の居住地域は南側に開けているという話に、脳裡にいきなりまるごとの地球が飛び込んできて、宇宙船地球号のリアルな実感でした。次の日の午前は生徒と一緒に12月のハワイの海に入り一入の感慨、午後は一日早く帰国する私は東本願寺ハワイ別院にお参りをし、京都から赴任されている2人(1人は大谷高校出身のかたです)から、1868年(明治元年)に始まる日本人移民の歴史、戦争中・戦後に直面されたことなどを聴かせていただきました。

この高校の研修旅行の1ヶ月前の11月7日～10日に中学2年生の沖縄校外学習が行われ、引率した先生から、入学以来の驚くほどの成長を実感できました、と喜びの声。その冊子のための文章を抄録します。『沖縄から「現在」を考える』;最近、沖縄中部の読谷村の自然洞窟「チビチリガマ」(そこでは住民らによる「集団自決」があり、避難していた140人中83人が犠牲になりました)が、何者かに荒らされたというニュースが報道され、一週間ほど経って地元の16歳～19歳の少年4人が逮捕されました。少年たちのほとんどがガマの歴史を知らず「悪ふざけ」だったと供述していると報じられて、言いようのないやるせなさにおそわれました。私たちは早送りするように現実に対処することを求められ、大きなニュースが飛び込めば一つ前のできごとを背景に押しやりたちまち忘れてしまう。それぞれの場と時は、現在の大地が何十億年の時間をかけて形成されてきたように、ながい時の歩みの重なりをもって現在となっていることを憶い、歴史の井戸に深くつるべを下ろして、そこから現在を見ることの大切さをあらためて思ったことです。過去は決して不在ではなく、確かな事実として今に現在しています。そして、私たちの今を問い返しています。旅の地で出会う《こと》と《もの》とに、耳と目と心とをいっぱい開いて、「宇宙船地球号」の相に、直に自らの心身をもって触れることは、私たちが意識しないままに、自分自身に、そして周りのひとやものに当てている物差しに気づかせ、新たな世界を経験することへと私たちを導いてくれるはずです。豊かにつなぎ合う「大谷われら」となって、今熊野に帰って来てください。